

第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 22 年 8 月 24 日（火）

時間 午後 2 時 から

場所 弥富市図書館 視聴覚室 2 階

○議 事

山崎議長	・ただ今から、平成22年度「第2回弥富市地域公共交通活性化協議会」を開催する。私は、司会進行の山崎である。よろしくお願いいたします。
服部市長	・本日は第2回目の会議であるが、お暑い中、またお忙しい中、本協議会への出席を感謝する。 ・6月21日よりコミュニティバスの実証運行が開始され、2ヶ月経つ。市民から様々な問題点等、指摘を受けている。本日は、実態調査やモニタリング調査についてご協議をいただきたい。 ・本日も皆さま方から、忌憚のないご意見をいただきたい。
事務局	・資料1、2-1、2-2、3、参考資料1、新聞記事、差し替え資料の確認 ・新委員の紹介
事務局	議題（1）利用者実態調査の内容について（資料1） ・路線別乗車人数の比較。平成21年度7月の福祉バスの乗車人数と平成22年度7月のコミュニティバスの合計乗車人数を比較した。コミュニティバスの合計人数は、5,488人であった。 ・曜日別乗車人数は、福祉バスで運行がなかった月曜日、日曜日の利用状況が低い。 ・バス停別の乗車人数。北部ルートの乗車人数が多いバス停は、「総合福祉センター」、「近鉄弥富駅北口」、「近鉄弥富駅南口」である。南部ルートの乗車人数が多いバス停は、「近鉄弥富駅南口」、「弥富市役所」、「弥富いこいの里」である。東部ルートの乗車人数が多いバス停は、「佐古木駅」、「十四山総合福祉センター」、「海南病院」である。参考までに福祉バスの時の乗車人数の多かったバス停は、「総合福祉センター」、「弥富市役所」、「近鉄弥富駅北口」、「弥富いこいの里」、「十四山総合福祉センター」、「鍋田支所」である。 ・平日と休日の時間帯別乗車人数。北部ルートは、9:00から10:00、11:30から13:30の利用が多い。1日平均1人以上の割合は、平日は約70%（22便中14便）、休日は約80%（16便中13便）である。南部ルートは、9:00台、13:00から15:00台の利用が多い。1日平均1人以上の割合は、平日は95%（19便中18便）、休日は100%（13便中13便）である。東部ルートは、10:00から12:00、14:00台の利用が多い。1日平均1人以上の割合は、平日は60%（10便中6便）、休日は約60%（8便中5便）である。 ・利用者実態調査の期間は9月、10月の2週間×2回行う。調査方法は、運転手が停車時に専用用紙に日報形式で路線別、バス停別、運行時間帯別乗降人

	数を記入する。集計内容は、路線別乗車人数、曜日別乗車人数、バス停別の乗車人数と降車人数、時間帯別の乗車人数と降車人数である。分析内容は、乗車人数の推移、バス停ごとの乗車・降車需要の把握、路線別・曜日別・時間帯別乗降人数による需要特性の把握である。それによって路線見直しの検討・評価となりまして、路線別、曜日別、時間帯別における運行方法や運行頻度等の検討、運行車両の大きさの検討、ルートの見直しを考える。 乗車需要と降車需要について。1つのバス停における乗車人数と降車人数は、行きと帰りとで必ずしも同じ交通手段、同じバス停を利用するとは限らないことから一致しないことが多い。乗車人数だけでバス停需要を把握するのは、利用者の利便性を損ねる可能性がある。また、「乗車人数、または降車人数のどちらが多いバス停」は、目的地または出発地となっていることが多く、「乗車人数、降車人数の両方が多いバス停」は、目的地または中継地となっていることが多いと考えられることから、施設分布や居住人口分布と組み合わせて検証することで、そのバス停が目的地か出発地かを推察することが可能となり、今後の運行ルートの見直し検討にとって、非常に有効となる。
山崎議長	6月21日に実証運行が開始された。 - 資料1の6ページまでは、7月の1ヶ月間の利用状況を集計したものである。7ページは、今年度の調査予定である。 1ページを見ると、福祉バスに比べて利用者数が若干、減っている。データの見方も含めて、この調査について自由に発言していただきたい。
永山委員 (タクシー協会専務理事)	- 福祉バスの時は、無料だった。その辺が、利用者の減少につながったのではないか。 - バス停別の乗車人数は、利用実態がよくわかって良いが、ルート別利用者のグラフにある1人以上乗車ラインは、どういう意味があるのか。
事務局	例えば、北部ルートの平日を見ると、21日間の運行のうち、6:45分のバスには5人しか乗っていなかったということである。ということは、この便は、4日に1度、空バスで、乗車がなかったということが見てとれる。この1人乗車ラインが適切かどうかは別にして、ひとつの目安として1日に1人以上の乗車を示している。
山崎議長	1人乗車ラインは、一つの基準ということである。
永山委員 (タクシー協会専務理事)	データを公に出す場合、赤のラインは非常に目立つので、そのへんが気になった。
伊藤委員 (議会議長)	- 北部ルートなどは特にバス停の間隔が伸びたので、利用者が減ったのかもしれない。また、休日は家族が車で送迎できるので、バスの利用が少ないのかもしれない。ダイヤ設定上の課題もあると考えられる。 - 私は北部ルートに近いが、市役所や病院の利用の便を作っていただきたいという要望があった。 - バス停の間隔が長すぎるという市民の意見もある。
山崎議長	- 他には、市民の意見はどのようなものがあるか。 - 今日の議題にモニタリング調査があるが、今年度、住民の意見を拾い上げて改善につなげていきたい。 - 私の印象としては、短期間でバス路線等を変更したので、まだまだPR不足の部分もあるのではないかなと思う。今までの福祉バスとしてのイメージ

	が強すぎて、新たな需要を喚起できていないような気もするので、PR(ソフト的な利用促進)をもっと実施していくべきではないかと思う。
谷委員 (海部建設事務所)	・ここには記載がないが、車イスの利用はどのぐらいあるのか事務局に聞きたい。バスの運行車輛の大きさの検討からも、車椅子の利用状況の把握は必要かと思う。
事務局	・現状では確認していないが、今の段階では、おそらく利用はないと思っている。
山崎議長	・実体として、乗車人数が福祉バスの時よりも月当たり 1,000 人ぐらい減っている。 ・今でも高齢者は無料だが、有料化されたことにより使わなくなった方の話は市の方に入ってきているか。
事務局	・具体的に乗るのをやめたという話は伺っていないが、「200 円という価格設定は非常に高い」とか、「福祉バスは福祉センター等を中心に考えられていたので、福祉センター等に行く回数が減ってしまうのではないか」等のご意見はいただいている。
山崎議長	・いずれにしても本年度、これから調査をしながら状況をしっかり把握して、利用促進を図っていくことになると思う。
服部市長	・意見に対して事務局としてきちんと答えていただいた上で、前に進んだ方がいいと思う。 ・先ほど伊藤委員（議会議長）から話があったように、バス停の数が福祉バスからコミュバスになって減少したことに対する市民の声が間違いなくある。その辺について答えてもらいたい。
事務局	・ひとつは、除いてしまった路線にあったバス停設置の希望を、二つの字からいただいている。 ・もう一点は、急行にするために削った利用頻度の低いバス停に対して、2 箇所ほど、設置の希望がある。
服部市長	・何箇所から何箇所に減ったのか。
事務局	・98 箇所から 71 箇所である。
服部市長	・ルートによって利用にかなり差があり、特に東部ルート、北部ルートについては、我々が予測していたよりもはるかに少ないという状況がある。 ・ルートの設定において、福祉施設や、駅、病院等に対して、きちんとした包みわけの整合性がなかったということが反省点ではないかと思っている。 ・例えば、「駅、あるいは病院までいいが、私が利用したいのは福祉センターなんだ」というような「福祉」に対する市民の不満の声がたくさんあるということも事実である。 ・それらご理解をいただいた上で、皆様のご意見を伺いたい。
山崎議長	・しっかりと住民の意見を捉えながら改善につなげていくよう、事務局の方で対応いただきたい。
永山委員 (タクシー協会専務理事)	・他の市町村に比べてサービスの範囲が非常に大きい。朝早くから夜遅い時間まで運行している。 ・通勤、通学等を含めた一般交通運営バスの性格で運行すると、広い範囲のダイヤの時間設定や速達性も必要となるが、福祉的な性格で運行すると、ある程度日中で、病院、役場、福祉センターへの運行が中心となる。 ・このバス路線の性格をきちんとしていくことが必要である。
事務局	・私見だが、長年やってきた「福祉バス」という性格が市民の中に根強くあるので、福祉センター云々という話は当然出てくる話であり、考えていか

	なければいけないと思う。 ・「コミュニティバス」というものについて、私達も含め、市民もまだ慣れない部分が多いと感じている。 ・以前は利用していなかったが、今は毎日通勤に使っていただいているという例も、非常にわずかだが出てきている。 ・朝夕便と昼の便とのダイヤの組み方も含めて、いろんな検討を進めていく必要があると感じている。
伊藤委員 (議会議長)	・この比較は「福祉バス」と「地域バス」だが、今、弥富市の行政では「タクシー券」の配布も行っている。その三つをきちんと区分した上で、ダイヤのあり方、バス停の場所の設定を考えていけば、また違った形が生まれるのではないかな。 ・弥富市が行っている福祉行政との関わり合いが一体どんな変化をしたのか、こういう部分も総合的に判断をすべきではないかと思う。
山崎議長	・今回のバスを検討するに当たっては、これまでの福祉だけという目的、考え方ではなく、市内の公共交通機関として機能するようなものにしていく方針で今のような形になった。 ・ダイヤに関しても、速達性を確保する便を設定し、通勤通学にも対応できるようにした。それが根本的に間違っていたとなると、昨年、一昨年と検討してきたものが何だったんだという話にもなりかねない。 ・常に見直しを図っていく必要はあるが、まずは今の考え方の元で、利用促進を図るという模索をとることも大事と考える。 ・今後、本格的に調査をして、評価、改善を行っていくということでご了承いただきたい。
事務局	議題 (2) モニタリング調査について (資料2-1、2-2) 【モニタリング調査について(住民アンケート)】・・・(資料2-1) ・先ほどの情報調査に続き、モニタリング調査ということで、住民アンケートを行いたい。 1：アンケートの実施期間(予定) ・平成 22 年 9 月 13 日(月)～平成 22 年 9 月 30 日(木) 2：アンケートの対象者 ・弥富市在住の 15 歳以上の方、2,000 名を対象 (住民基本台帳より無作為抽出) ・小学校区の人口割合で按分 3：アンケート調査の設問の流れ ・調査対象者→個人属性(性別、年齢等) ・バスを利用している人、いない人の分け ・利用している場合→利用頻度、曜日、目的、満足度 ・利用していない場合→利用しない理由 以上の問により、コミュニティバスの改善点を導き、あとは自由意見も含め、改善の方向を進めていく。 【アンケート調査票(案)】・・・(資料2-1) I ご自身について 問 1 性別、年齢、職業 問 2 自分の居住学区

	高齢の小学校区が分らないという方は、右の地図で確認していただく。 問 3 「コミュニティバス」が運行していることを知っているかどうか。 知っている、知っていない 問 4 最寄りのバス停名、バス停までの距離 どのぐらいの距離の方に使っているか 徒歩 3 分(100m 以内)は、右の地図の下に、500m の距離が書いてあるので、確認できる Ⅱ コミュニティバスについて 問 5 コミュニティバスを利用しているか 利用している→週に何回、月に何回か →利用している曜日 →利用の目的 →乗車降車で利用するバス停 利用していない→利用していない理由 路線・ルートが合わない、利用の仕方が分かりにくい等、その他 10 項目 問 6 コミュニティバスについての各サービスに対する考え 運行時間・便数、総合的な満足度まで 14 項目の各項目に対して、非常に良い、やや良い、ふつう、やや悪い、非常に悪い、わからない Ⅲ 今後の弥富市コミュニティバスについて 問 7 新たに設置してほしいバス停の場所 問 8 問 7 で答えた場所について、利用したい出発時間帯・到着時間帯 問 9 コミュニティバスの運行に対して要望したい改善点は何か、要望の程度に○をつけてください 要望大 5 から要望小 1 までの 5 段階、わからない、の 6 つに分けて回答 問 10 問 9 で要望した改善点が改善されたらコミュニティバスを利用いただけますか ますます利用する、利用する、利用しない Ⅳ 自由意見 添付資料「どうして弥富市コミュニティバスが必要なの？」 ・地域の足として必要です!! 車を運転できなくなった場合の利用等。 ・クルマ移動で困ったときに弥富コミュニティバス!! クルマは非常に便利なものだが、年齢的にも環境的にもクルマを利用できない場合もある。 ・地域のみなさんの支えがないと運行を続けられません!! 市民が利用しなければ、コミュニティバスの存続は困難である。 【モニタリング調査について(企業アンケート)】・・・(資料2-2) 1：アンケートの実施期間(予定) ・平成 22 年 9 月 13 日(月)～平成 22 年 9 月 30 日(木) 2：アンケート対象企業 ・弥富市臨海部に立地する企業 127 社 3：アンケート調査の設問の流れ ・企業情報→会社名、従業員数、就業時間等 ・従業員の通勤状況
--	---

	・通勤での公共交通利用への転換取り組み 取り組んでいる→取り組んでいる内容 取り組んでいない→取り組まない理由 ・コミュニティバスについて 利用する考えがあるかないか。 【アンケート調査票(案)】…(資料2-2) I 貴社の企業情報について 問1 会社名、勤務している従業員数、就業時間、 具体的な通勤対策→送迎バス、フレックスタイム等、 従業員用の駐車可能台数 II 従業員の通勤状況について 問2 従業員の通勤の交通手段と人数 自家用車、コミュニティバス、送迎バス、二輪車等8項目 従業員の通勤の交通手段の選択ルール 具体的なルール、通勤補助の有無 III 通勤での公共交通利用について 問3 公共交通での通勤の転換に取り組んでいるか →取り組んでいる内容 →取り組まない理由 IV 弥富市のコミュニティバスについて 問4 今後の利用推奨を考えているか 考えている、考えていない 問5 コミュニティバスへの要望(自由回答) ・企業アンケートは、最終的にこの形でお願いするかは、まだ確実ではない。 多少アレンジの可能性もあるが、基本的にはこのような形で進めたいと考えている。
山崎議長	・住民アンケート、企業アンケートと、二つのアンケート調査の案をご説明いただいた。 ・住民アンケートは、調査内容は固まってきているということか。
事務局	・住民アンケートは、ほとんどこの形で進めたいと思っている。 ・ただし、企業アンケートについては、細部をもう一度詰め直したい。
山崎議長	・この二つの調査に関して、皆様方からご意見をいただきたい。
伊藤委員 (議会議長)	・2,000名の無作為抽出のアンケートだけでなく、ここにおられる各団体の代表の皆さん方が、それぞれの立場で、実際に乗車して調査する事も大切だと思う。 ・企業だけでなく、学校関係の調査も考える必要がある。例えば弥富中学校では以前、学校移転により遠距離通学に対して補助金を出していた。福祉バスは、通学における安全性について、学校側の意見も聞いていた。また弥富市には海翔高校のように、蟹江、佐古木、弥富と広い範囲で通学する生徒もいるので、その通学における安全対策、交通事故対策なども考える必要がある。アンケートも、100%オールマイティなものは不可能かと思うが、通学の安全対策に対しても、一定程度の要望をまとめていただくこ

	とが必要なのではないか。
事務局	・ 一点目の地域の役員さんたちに対するアンケートという話は、現段階では想定していなかった。昨年の調査では、自治会はなかったが、例えば福寿会、子ども会、女性の会に対するアンケートはとらせていただいた。 ・ 各団体へのアンケートの場合、住民アンケートと同じ内容でいいものかどうかも含め、検討の必要がある。アンケート実施の有無に対しても、検討した上で考えたい。できたら、事務局一任という形をとらせていただきたい。
伊藤委員 (議会議長)	・ 基本的には全体的に同じアンケートで対応しないと、その部分だけ集計の仕方が難しくなる。 ・ それぞれの立場からの意見を、全体的にどう集約していくかが課題である。各地域の人達がそれぞれ同じ内容で聞いた意見をまとめ、代表の方に集約を任す。無作為抽出と同時に全体的な集約、両方の考え方の中で整理をしていく必要があるのではないかな。 ・ アンケートが違えば、また違った角度から多くの課題を持ってしまう。
山崎議長	・ 個人個人に対するアンケート調査と、組織として集約する調査とは違う。聞く内容に関しては同じでも、聞き方が変わってくる。それを同列で全部の票を集計すると片寄りも出る。 ・ 住民アンケートは無作為抽出で行い、それを集計する。それとは別に、組織に対するヒヤリング的なものは、組織としての意見を集約するというところで、聞き方を変えるということを事務局は言っており、間違っていないと思う。
服部市長	・ 開始して 2 ヶ月、利用実績も 1 ヶ月当たり 1,000 人も少ないという状況がある。この状況に対して、アンケートをとることにより、市民の皆さんの思いや意識を、この機会にしっかりと把握しなければいけないと強く思っている。 ・ 無作為抽出によるアンケートでお話を伺うと同時に、伊藤委員が言うように、本当に利用していただきたい方たちのご意見を、事細かにしっかりと聞き、利用促進に結び付けていかねばならないと思っている。 ・ 皆様からも忌憚のない意見をぜひお寄せいただきたい。
後藤委員 (名古屋港西部 臨海企業連絡 会)	・ 臨海部の方へ今回、バスを運行していただき、ありがたい。 ・ 臨海部はご存知の通り広く、16 名という乗車人数にびっくりしている。どのような方が利用されたのかと思う。利用の少ない理由は、今回の調査によりいろいろ出てくると思う。バス停が遠い、運行回数が少ないということは私も聞いている。 ・ 今回の企業の調査で、この 127 件の中に下請け企業さんは入っているかどうか。 ・ 企業の事業内容により、バスを利用される会社、利用されない会社が完全に分かれてくる。営業活動の多い会社は、バスは本数が少ないためほとんど利用されない。大企業のように出社、退社時間が決まっているような会社では、非常に利用率が増えてくるのではないかなと思う。

	・先ほどバス停からバス停までの距離が 300 メートルと言われたが、臨海区においては何メートルぐらいを考えているか。一社から一社の間、隣までが 1 キロある場合もあるが、どのぐらいを考えてみえるのか。 ・バス停の数が増えると、今度は所要時間が長くなるので、準急バスというようなものも考えていただけたら非常にいいと思っている。 ・今回のアンケート調査で、いろいろ考えが出てくるのではと思う。
事務局	・臨海区の方々にどのようなサービスができるか、具体的に出していないのが現状である。 ・今回、臨海区にバス停を一箇所設置させていただいているが、バスの台数の制限もあり、その中でどのような形で進めるか、今後検討していく内容だと思っている。
山崎議長	・127 社の企業に下請けは含まれているかという質問があったが・・・。
事務局	・事業所統計の中の 127 社という形で出させてもらっている。
坂下委員 (福寿会)	・福寿会は、老人をたくさん抱えている。 ・南部の方から福祉センターへの直通バスがなくなり、今は近鉄の駅で乗り換えということで、非常に不便だという声が出ている。 ・9 時台から 10 時台の 1 便ぐらいは、南部から福祉センターへ乗り入れるバス、午後 1 時台から 2 時台には、北部から南部の方に乗り入れるバス、そういうダイヤを組んでいただくことを、切にお願いしたい。 ・今は、福祉センターは発着所ではないので、ベンチに乘客の方がみえないとバスはすぐに発車してしまう。乗り換えされるお年寄りのお客様が建物の中で待っていると乗り過ごしてしまい、そこでまた 2 時間も待つことになるという声が多く出ている。面倒かとは思いますが、運転手さんにちょっと一声かけていただくと非常にいい。 ・最初は弥富駅への通勤、通学の乘客を確保するということがあったが、この資料を頂いて、朝の乗客数が非常に少ないことにびっくりした。いい時間帯にダイヤを組んだので、もっと需要があるかと思った。PR 不足という点があるかと思う。 ・アンケートのとり方もお考えいただくといいかなと思っている。無差別だけでなく、近鉄を利用するお客様に対してアンケートをとるとか、PR も含めて効果があると思う。
事務局	・承った。
山崎議長	・こういった意見を参考にしながら、ぜひ改善していただきたい。 ・確かに近鉄の利用者に対して、鉄道の端末交通手段としてバスを使っただけの方が増えてくれば利用が増えることも確かにあるので、そういう人達をターゲットとした PR も重要なと思う。 ・住民アンケート調査の最後に、「どうして弥富市コミュニティバスって必要なの？」という資料を付けてアンケートをされるということだが、これは非常に重要だと思う。分かりやすく、なんでこのバスを走らせているのか、こういうバスがあるんだよということを市民に知らせる資料を配布するのは、非常に効果があると思っている。

	・このようなチラシを、広報で全戸に配布するようなことも、できればやっていった方がいい。 ・いくら便利なバスがあっても使い方がわからない、使ったことがないという方がいる。クルマがあればどこにでも行ける、クルマがあまりにも便利すぎるので、バスなんか使う気になれないという方々が結構いる。使ってみると意外に使えるじゃないかと気付く場合もある。 ・例えば、このようなチラシに、無料で乗れるお試し券を印刷して、それを全戸に配布することも、利用促進のひとつとしてある。まずは使ってみてくださいということも、対策として考えられると思う。
永山委員 (タクシー協会専務理事)	・スタートしてまだ２ヶ月半という中で、どういった時点でどう評価するのか、どう問題点を解決するのかということになると思う。 ・住民アンケートを見ると、ダメ出しみたいなアンケートに受け取れる。 ・乗り合いバスの場合に一般的に指摘されることだが、路線、バス停、時刻が非常に頭に入りづらい、分りづらいというのがある。 ・地域住民の方々はじめ、学校、いろいろな施設等で路線バスを生活に利用していただく上で、広報を徹底的にやっていく必要がある。 ・福祉バスにプラスして通勤・通学にも使っていただくという範囲を広げた形でスタートしたわけだが、乗車券はどういう形で販売されているのか。社内販売、役場販売はしているのか。またプレミアがついた回数券の販売等、お客様の使い勝手を考える必要もあるかと思う。 ・企業アンケートは非常にいいことだと思うが、本当に企業が通勤に困っているのかどうか。困っていないのに交通手段を転換せよというのは、なかなか現実問題としては難しい。自家用車、企業バス等、それぞれ交通手段はあると思うので、「こういったバスを走らせるから、環境的にちょっと乗り換えていただけませんか」という話になると思う。果たしてそういうことが可能なのかも把握していく必要がある。どうしてもバスを利用させたいという強い姿勢で取り組むのか、利用できればしていただきたいという話なのか、考えをしっかりとしないといけない。 ・まだスタートして２ヵ月半である。アンケートにより改善すべきことは改善しなければならないが、それよりも広報の徹底、あるいは乗車券の使い勝手等、きめ細かいことをつなげて、住民の皆さんに、路線、ダイヤ等しっかりと知っていただくというのも大事なかなという気もする。
鈴木委員 (女性の会会長)	・最初時刻表をもらった時に、とても見づらいという印象があった。 ・南部ルート、東部ルート、北部ルートとまとめて載っているが、すごく細かくて見づらいので、これを見てバスに乗る気にはなれないと思う。 ・例えば、あなたの地区はこのルートが便利ですよと、もう少しわかりやすい時刻表を作成したらどうか。 ・近鉄の時刻表は、大きく分かりやすく書いてある。 ・例えば、私は白鳥学区だが、白鳥学区は北部ルートを利用されると便利ですよと、その北部ルートの時刻表を大きく表示する等、改善が必要と思う。
山崎議長	・何種類も時刻表をつくると費用もかかるが、時刻表の見やすさは大切であ

	る。 ・運輸局で進めているモビリティマネジメントという試みもある。一人一人に対して親切に情報を提供することで、その行動を変えさせるようなそんな施策も今やられている。 ・アンケートともあわせ、このような時刻表の作り方も、今後検討していくこともひとつの手かなと思う。
事務局	・回数券等の発売の場所の件であるが、市役所の中の防災安全課、鍋田支所、十四山支所、十四山福祉センター、総合福祉センター、それとバスの中で販売している。 ・時刻表の件については、見慣れていない方にとっては非常に見にくい時刻表であることは確かかと思う。シンプルにできるかという、一概に鉄道と同じような時刻表をつくるというのは非常に難しい。極端な話だが、ひとつずつのバス停の時刻表を作成するような話になってしまう。ポケット版の時刻表は南部ルート、北部ルート、東部ルートを分けた形になっている。ただ、どこのバス停に何時に着くかということをどうしても記載する必要があり、非常に細かくて、見にくいものになっている。 ・いろいろ考えさせてはいただくが、現状で近鉄の時刻表と同じようなものができるかという、非常に難しいのではないかという感想を持っている。
山崎議長	・バスの時刻表は非常に難しい。あるバス停の発着を示すだけだったら簡単だが、どこに何時に着くかという情報まで記載するととなると難しくなる。
鈴木委員 (女性の会会長)	・この時刻表は発着の細かい時間も書いてあり、すごく親切である。 ・例えば、北部ルートを利用する人には、そこだけを拡大したもので、他は小さくてもよい。乗継はバス停に掲示するなどして、利用する地区の時刻表を分かりやすくしていただきたい。
事務局	・路線のバス停の問題、ダイヤの問題により変更が確実に出てくるので、その時点で、見やすい路線時刻表に変えさせてもらうことを考えていきたい。 ・タクシー協会の専務理事さんが言われた企業アンケートの件であるが、127社というのは名古屋港西部臨海の地域においての企業だけを考慮しており、市内全域の企業に対しての調査ということではない。そちらからのご要望もあったので、今回このようなアンケートをご提案させていただいた。
長崎委員 (県バス協会専務理事)	・前の報告の確認を含めてお聞きしたい。利用者実態調査というのは、実数ということでとらえてよいのか。無料の方も含めてのカウントか。
事務局	・はい。
長崎委員 (県バス協会専務理事)	・住民アンケートだが、6 ページの間 5、利用している方に対する質問で、利用している曜日に○をつけてもらう間があるが、その後の質問が一括の質問形式になっている。曜日によって目的が違うので、主なものだけ挙げてあまり意味がない。行動パターンを把握した上で新たなルートの設定、あるいはダイヤの設定等を考えていくのであれば、そこをひと工夫したものでないと、改善にはつながらない気がする。その見直しをしていただければと思う。関連して 7 ページの間 7、これも既存のルートか、新たに

	検討をするかもしれないルートも含めて質問をしているのかははっきりしない。また回答も一つだけなのか、複数でもいいのかわからない。整理をしていただきたい。 ・企業アンケートについては、臨海部の企業にどれぐらいの方々がいらして、どういう利用が見込めるのかということをももちろん把握しての結果だと思うが、現在導入されている車輛で、それに応えることができるのかどうか、車輛の大型化、あるいは増車等を考えての提案なのか見えないところがある。その辺の整理が必要であると思う。当然、聞くことによって出てくるものに対しては受け皿を考えていくというスタンスであれば、それはそれで答だと思っている。
山崎議長	・具体的にアンケートの調査票の中身についてのご意見をいただいたので、参考にさせていただき、事務局の方で検討していただきたい。
古橋委員 (運輸支局)	・アンケートをするときに、これはメッセージだという話もあったが、送るときに中に時刻表を必ず入れていただいて、このバス自体の宣伝をしていく必要があると思う。 ・企業に対するアンケートについても、同じように時刻表を入れていただき、企業にもそれなりの情報を与えないといけないと思う。 ・住民に対するメッセージの一番後ろ(9 ページ)の「どうして弥富市コミュニティバスって必要なの？」とか、アンケートの表紙とか、どう工夫するとアンケートの回収率が上がるかという研究を私は見たことがある。ここに直筆で市長さんの名前を入れたり、さらに写真も入れたりすると回収率が上がるというデータがある。そういう意味では、ここに入れるべきかと思っている。 ・9 ページの「なんで必要なの？」という中では、永山委員からもお話があったが、環境の話についても触れていくべきだと思うので、検討していただきたい。 ・これは感想であるが、通勤の需要は、6 月に始めてすぐに対応できるとは思わない。通勤手当の支給等は、6 ヶ月や 3 ヶ月の定期なので、対応によっては 9 月、10 月ということもある。そういう意味で、今、乗客が 1 ヶ月当たり 1,000 人少ないので直ちに改良しなければならないということではない。とりあえず今の時期は、どれだけ宣伝していくかということにかかっていると思っている。早急に考えるのは危険かなと思っているので、よろしくをお願いしたい。
山崎議長	・今ご指摘があったとおり、まだまだ 2 ヶ月半で、これからだと。まだ浸透もしていないし、通勤だったらその通勤手当のタイミングもある。通学の需要を考えると、年度の切り替わりで利用者もがらっと変わるということも考えられる。少し長い目を見て、どっしりと構えて、基礎的なデータを収集しながら PR をしていくべきであると思う。 ・市長さんの直筆サイン入りだとアンケートの回収率がよくなるという話だが、これは実際にそういう話があり、私も一度アンケートでやったことがある。特に企業だと、市長名があることでより協力的になる事もあるので、

	また検討していただきたい。 ・アンケートの件は、さらに細かい中身に関しては事務局にらせていただくということで、進めていただきたい。
事務局	議題（３）周辺自治体の公共交通の現況について（資料３） １：周辺自治体 ・飛島村(蟹江線) ・木曽岬町(自主運行バス) ２：周辺自治体の公共交通の現状把握の目的 今後、バスの広域連携を考えていくなかで、周辺自治体のコミュニティバスの現況を把握し、弥富市コミュニティバスとの比較を行なうことで、周辺自治体のコミュニティバスとの調整を検討していくことを目的とする。 ３：周辺自治体の公共交通の現況 ①運行形態 運行時刻…表の通り 運賃 …大人 200 円、高校生、または小学生が 100 円等 75 歳以上の無料運行の部分があるのは弥富市だけである。 回数券は、10 枚つづり、11 枚つづり、12 枚つづりで各市町村において差がある。 弥富市内のバス乗り継ぎについて …飛島村(蟹江線) — 神戸新田、海南病院 亀ヶ地、善太橋西(10 月 1 日から設置を要請) …木曽岬町 — 近鉄弥富駅、弥富市役所前、海南病院前、前ヶ須 …弥富市 — 今後連携への検討 ②バスの運行の目的 飛島村(蟹江線)…地域ニーズに対応した、利便性の高い公共交通サービスの提供を目的 木曽岬町…木曽岬町と近鉄弥富駅を結ぶ生活交通路線として運行を目的 弥富市…通勤・通学・通院・買い物等、市民生活のための移動手段の確保、公共交通空白地域の解消を目的 ③バス停の設置と廃止の基準 飛島村(蟹江線)…利用者等の具体的数値の基準は設けていない。 木曽岬町…現在は、設置・廃止基準はない 事務局(案)としては、バス事業者や近隣の市町村を参考に、バス停を 200m から 300m で整理していく予定 弥富市…今年度検討、基準の設定について考えていきたい。 ④バスの利用状況 便当たりの平均人数 飛島村(蟹江線)…平日 8.0、休日 5.3、計 7.5 木曽岬町…平日 8.6、休日 7.3、計 8.0 弥富市…北部ルート 計 3.0

	南部ルート 計 5.7 東部ルート 計 2.0 ・6月からということで、非常に低い数字になっている。ふた月の間の数字なので、これからどのような変化をするかわからないが、現行においてはかなり苦戦しているというのが現状である。
山崎議長	・お隣の町村と比較したデータを出したので、我が弥富のバスは乗っていないぞという点が出てしまい、また赤線で囲ってあり目だっている。 ・まだ2ヵ月半ということで、今後頑張っていきたいということで、この利用状況というところはいいかと思う。 ・要は、お隣の町村と連携しながら、お互いの住民がお互いのバスを利用しやすくしていくことが望ましいということで、まずは飛島と木曽岬のバスの状況を整理していただいて、皆さんに確認していただいた。 ・今、調整中のものもあるということで、お互いの住民にとって一番いい形になっていくことが望ましいと思うので、事務局の方で調整し、検討していただきたい。 ・バス停の設置、廃止基準を今年度考えていきたいということであるが、このあたりに関してはいかがか。 ・バス停の間隔、位置等、地元から何らかの形で要望がある中で、本当に必要なムダのない運行をするため、かつ利用者にとって利用しやすい運行をするために、何らかのバス停の設置基準を設けたいということだと思う。バス停の設置基準があれば、効率的な運行につながっていくと思われるので、なかなか難しいことかと思うが、しっかり検討していただきたい。 ・ちなみに、私が一番関わっている豊田市のバスでは、バス路線の評価基準というのをつくっている。利用者の少ないところは廃止する、サービスを落とす、逆に利用者の多いところは便数を増やす。それを地域の方々に考えてもらうような姿勢で、評価基準をつくることもやっている。ここで言うバス停の設置基準は、それに近いようなものだと思う。 ・市民の方が、誰が聞いても納得できるような基準を設定していかなければいけないと思うので、検討していただきたい。
伊藤委員 (議会議長)	・バス停の設置基準の考えであるが、弥富市の中でも距離間隔が大分違う。 ・コミュニティバスは地域バスであるので、営利事業であるとともに、地域交通の役割、地域活性化の役割も含んでいる。廃止基準も5人以下は切る、3人なら切るという単純なものではない。 ・標準的な一定の距離間隔のバス停と、既存の路線に関わらないバス路線の設定が必要。 ・安全対策も講じつつ、市民に理解される基準をつくり、市民に利用していただけるようなバスの運行形態を考えていただくとありがたい。 ・さらに言えば、便数も、昼間は、例えば病院へ行くようなバス、飛島さんはデマンドバスというのをやっている。一定の安全対策を講じながら、利用する時間帯のバスの運行形態も考えていただくとありがたいと思う。
事務局	議題(4) その他(参考資料1)

	事業計画フロー ・第２回協議会において、「乗継拠点の整備検討」が議題に上がっているが、今回の協議会の議題からは外させていただいた。 ・当初、乗継拠点は、弥富駅と佐古木駅の二箇所という考え方をしていたが、現実には東部ルートとの関係もあり、海南病院もひとつの乗継拠点という考え方もできる。今日の段階では、今後の路線、ダイヤ等の検討も含めた中で、乗継拠点を検討していくということでご理解いただきたい。 ・前回の協議会の席で、75歳以上に対する無料パスの配布について、配布ではなく身分証明書等に対応するとお話しした。身分証明書では落としたときに大変なので、無料パスを配布してほしいという声が非常に多くあった。9月末を目途とし、対象者全員に無料パスを配布するというところで作業を進めているので、ご理解いただきたい。 ・委員の方々も、バスに乗る機会も少ないと思うので、高齢者への配布時期に合わせ、委員にも無料パスを配布させていただきたいと思う。一度バスに乗っていただき、その中でまたいろいろなご意見をいただけたらと思っているので、よろしく願いしたい。
山崎議長	・委員の方々にも無料パスが配られるということなので、是非どんどん使っていただきたい。 ・配布資料に、「地域公共交通支援予算、倍増の420億円要求へ」という見出しの新聞記事があるが、これに関して運輸局の方から何かあればお願いしたい。
古橋委員 (運輸支局)	・これは東京交通新聞という業界紙で、月曜(昨日)の記事である。 ・私も記事に書かれている範囲内しか知りえないが、18日に民主党の政策調査会があり方針が決定され、予算は当初は193億だったが、その倍額の要求をしていく予定であると記事は書いている。まだ概算要求の方針の決定なので、いずれにしても概算要求を今週末から来週頭にする予定である。そこでの記者発表で、詳細については皆さんにお伝えできるかと思っている。 ・最終的には、毎年の例では、12月末か1月ぐらいいに来年度予算の決定がされる。その時点でもプレス発表していくことになる。 ・12月ないし1月の予算決定を受けて詳細な設計に入っていくことになるので、協議会からの予算の要求等、時間的に余裕がなく、いろいろとご迷惑をおかけする事もあるかと思うが、よろしく願いしたい。 ・中身については、わかり次第、何らかの形で披露していきたいと思う。今の状況はそのような感じである。
山崎議長	・今の民主党政権が掲げている交通基本法、交通に関する基本的な法律を制定していく流れの中で、公共交通というのはすごく重視されている。 ・事業仕分けでいろいろなことが削られる中で、公共交通に関しては少し大幅に予算を確保できそうな明るい兆しが見える状況かと思う。 ・国の支援を活用しながら、弥富のバスをより良いものに、使いやすいものにしていくことになるので、事務手続き等大変かと思うが、情報を運輸支

	局さんからいただきながら、進めていただきたい。
服部市長	・ご審議いただき感謝する。お疲れ様。 ・わずか２ヶ月、されど２ヶ月という言い方もあろうかと思う。私どもとしては、市民の声は非常に大きな声として届いている。 ・今後、改善に対してお力添えをさらにいただききたいと思っている。時間との戦い等々あるが、今後、一つ一つの協議会に、具体的な回答を出していただくような方向でお願いできればと思っている。今後ともよろしくお願いしたい。
事務局	【連絡事項】 ・次回の第３回協議会は、現段階では１２月を予定している。 ・日程が決まり次第、御案内するのでよろしくお願いしたい。早く作業が進んだ場合、若干早い時期にお願いする事もあるかもしれない。
山崎議長	・次回は１２月ということで、先ほどの参考資料１にもあったように、調査結果をご報告いただく予定である。 ・この調査に関して、何か委員から意見がある場合はいつまでに意見をいただければ間に合うのか。
事務局	・調査内容に関しては、先ほどお示したように、９月１３日ぐらいから入ってしまうので、今月末ぐらいを最終リミットとさせていただきたい。
山崎議長	・今日言い忘れたことを思い出されるようなことがあれば、事務局の方にご提出いただきたい。 ・以上で、第２回弥富市地域公共交通活性化協議会を終了する。皆様、お疲れ様、今後とも協力をお願いしたい。